
SAO magicwordmanstory

言葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

S A O m a g i c s w o r d m a n s t o r y

【Nコード】

N 0 6 3 2 U

【作者名】

言葉

【あらすじ】

いつの間にか死んでしまって、何も知らされず、しかしすべてを悟った青年は、新たな人生を歩むことになる。

設定改 2011年7月31日(前書き)

書き忘れてたorz

ってことで設定集です。

(ネタバレ有)

あと、プロローグのほう改変したんで見てください。
改変した場所は後書きに書いてます。

それでわどろ

設定改 2011年7月31日

オリ主（名前は後で明かすけどみんな大体わかってるでしょ） 男

13歳 転生者

・めっちゃ頭いい

・コンピュータの扱いが反則的

・スキルは索敵・隠蔽・戦闘回復・片手直剣・ナイフ・投擲・武器
防御・体術・軽業・双剣・魔剣

・Lv111（原作開始時）

・桐ヶ谷家の近所の子供、キリトとも知り合い

能力

・不老と幸運

・赤色と橙色と青色の能力

・戯言遣いの能力

・ユニークスキル『魔剣』

体：SS+ 頭：SS+ 感：SS+ 運：EX

コルト 男（の娘） 15歳

・ネカマ

・しかし容姿も普通に女

・スキルは索敵・隠蔽・戦闘回復・投擲・武器防御・体術・タガール・
小剣・鑑定・銃剣

・Lv85（原作開始時）

能力

特になし

体：A 頭：A 感：A 運：B

ジユノ 女 15歳

・冷静沈着

・スキルは索敵・隠蔽・戦闘回復・投擲・武器防御・体術・両手直
剣・刀・料理・虚刀

・Lv89（原作開始時）

能力

特になし

体：B 頭：S 感：S 運：A

その他

ギルド『蒼き林檎』 グリーンアップル

オリ主とコルトとジユノ、書類上（？）ではキリトも所属
小さいがKOBや青竜連合なみに有名

カップリングは

・キリトとアスナ

・クラインとリズベット

・オリ主とジユノ

・コルトとシリカ

……やんないかしんね。

また後で追加するかも……

設定改 2011年7月31日（後書き）

オリキャラの二人にもユニークスキルを加えました。

三話目書いつてけどめっちゃやりにくい……
遅くなるかも。

プロローグ（前書き）

新作イエーイ！
頑張って書きました。

それでわどぞ

ブローグ

「くぁwせdrftgyふじこlp:@:」

「あ、失礼、焦りました。」

「いや、わざとだ。」

「集めました…ってマジでどこどこ!？」

「わざとじゃない、ってか字違う!確かに似てるけど。」

「いや、そのネタに乗ってる場合じゃないんだよ!しかも、会話じや俺のボケわからないはずだし…って…え、誰あんた？」

「あたしは、神様だよ。いや正確には代理人なんだけどね？」

「だから!ボケに付き合ってる暇はないんだよ。それになんて疑問形なんだよ…あれ？」

そこで俺は、初めて気付いた

俺の話している方向、そこには誰もいないことに

「何で声だけ聞こえるんだよ…。」

それに俺の周りが真っ白で何も無いことに

あれ?これって二次創作みたいなの!

「いやー、こつちにもちよつと都合があつてね今回は姿を見せるわけにはいかないんだよ。」

「どうしてさ？」

「君ってさー頭いいじゃん。」

そうなのだ、自分で言うのもなんだが俺はかなり頭がいい例を挙げるなら…

3歳の時、すでに高校レベルの問題を解き始める

5歳の時、飛び級でアメリカのハーバード大学卒業

6歳の時、数学の難問であるフェルマーの最終定理を解き始める

7歳の時、解き終わる

なんて感じ

この後は特に何もやってなかったけど

どれが一番得意かって聞かれたら、やっぱり数学かな
「いや、だから？」

「こつちもいろいろ感づかれるとまずいんですよ。」

「ああ、そうゆうことね。」

つまりあんたのミスで死にしまったわけだな
多分、50人目あたりかな

なんとなくつか、普通神様はこんなミスしないと思うから代行して仕事やってるやつかなんかだろ
で、こいつはよくミスする奴だな

「そうゆうことです。」

「で、どこの世界に転生させるの？」

「え……なんでわかんのか？」

「この感じは二次創作以外の何ものでもないでしょ？」
簡単な事だろ

「じゃ、どこに行きたいですか？」

「ソード・アート・オンラインがいいかな。」

「一応、理由聞いておきましょうか。」

「まず命の危険が少ないだろ、もう能力が少なくても対応できるレベルだからってとこかな。」

「はあ、まあいいです。次にどんな能力がほしいですか？ちなみに不老と幸運はデフォルトです。」

「制限は？」

「無いですよ。」

「じゃあ、戯言の赤き征裁と橙なる種と青色サヴァンの能力がいいかな。あ、ついでにいちちゃんの戯言も。最後にオリジナルユニークスキルで『魔剣』能力は斬撃を飛ばせることだ、簡単に言つとソウル・イーターのクロナの奴ね。」

「そうゆう割には結構チートですね。」

「いいんですよ？別に。」

「さて、あんまり話していると疲れるんでもう送りますよ。」

「もうちょっと、話してたいな。」

「だめですよ。もう限界です。」

「まあ、いいよ。」

「それでは、あなたの新たな人生に幸が多からんことを。」

「おっと、あぶね。」

テンプレ的に俺の真下に穴があいた

「早く逝ってくださいよ。」

「字がちげーよ。」

「とにかく行ってください！」

「はいはい、いつてきまーすつと。」

プロローグ（後書き）

二次創作はとりあえず二つだけです。

7月21日改変（ネタとかもらった能力とか）

魔剣の噂（前書き）

SAOの題名ってつけにくいな。

今回は次の話へのつながりみたいなのはもんです。
過去話なんかは後からやります。

それでわどーぞ

魔剣の噂

「ねえ、キリトくん。」

アスナが俺に問いかける

二十二層の小さなログハウスで暮らし始めてもう五日だ

最近ではこの生活が幸せすぎて現実に変える気持ちも薄れている気もする

いや駄目だなこんなじゃ

必ずアスナを現実世界に返すって約束したのに

「ねえ、キリトくん聞いているの？」

「ああ、聞いているよ、で何？」

「魔剣の噂って知ってる？」

「魔剣？」

このSAOの中には魔法とゆう物が存在しない

それに代わるソードスキルがある

簡単に言うとも必殺技みたいなものだが

しかし魔剣とゆう物はなんなんだろう？

「そう、魔剣。」

「なに？それってモンスタードロップで出る半端なく強い剣の俗称のことを言ってるわけじゃないよな？アイテムか？二つ名かなんか？」

「まあ、二つ名でもあるらしいんだけど、どうやら三人目のユニークスキルらしいよ。」

三人目……ヒースクリフの神聖剣、俺の二刀流に次ぐ三人目のユニークスキル魔剣か

ユニークスキルそれは一人にしか与えられないスキルでその出現条件はランダムではないかと言われるほど出現させるのは困難であるしかし、それを補って余りあるほどの能力を有している

「それはどんなスキルなんだ？」

「それが…わかんないらしいのよ。」

「はあ…誰から聞いたんだよ？」

「リスベットからだけど、それが噂だけらしいのよ。」

……噂かよ

「誰も姿を見たことがないらしんだけどなぜかその噂だけが広まってるんだ。」

「でも、気になるな。」

「そうでしょ？そういうと思ったわ。」

「どうせ暇だし、探してみようぜ！」

強い奴には興味がある

今のところ負けたことがあるのはヒースクリフだけだ

その彼ももしかしたらそれに匹敵するかもしれない

「そうね、でもどうやって探すのよ？」

「そ、それはいろいろ頑張っ……」

「考えてなかったんでしょ、とりあえず情報屋にでも行ってみる？」

こうして、俺らは「魔剣」を探し始めた

リズベットと（前書き）

わすれてた。orz

遅くなつてすみません。

もう一つの小説のほうを優先してやってるので遅くなることが多々あると思います

それでわどーぞ

リズベットと

端的に言って無駄足だった

でも一つだけわかったのは彼がソロでベータテスト出身つまりビーターだとゆうことだけ

と、ゆうことは俺が会ったことがあるかもしれない

「無駄足だったね…。」

「ああ、そうだな。」

この場合、情報屋より信憑性はないが噂のほうが情報が多かったりする

「これからどうする？」

「そうだな…とりあえずリズベットから話を聞いてみつか。」

「リズの話は信用できないと思うけど。」

「情報がないよりましだろ。」

「そうだね、行ってみようか。」

はあ、結局見つからねーのかな

よく考えつと、どっから魔剣の噂は出てきてるんだ

誰も見たことがないはずなのに『魔剣』のユニークスキル名がわかるんだ？

そこらへんもリズベットに聞くしかないか

「リズ、居るー？」

「はいはい、居ますよ、こっちこっち。」

「今日はクライン居ないんだな。」

「いやいや、みんなあんた等みたいにならぶらぶでべったりってゆうわけじゃないし。」

「そんなこと言いながら、結婚してるくせに。」

結婚、S A Oの中ではかなり珍しいことだ

結婚をするとアイテムお金などがすべて共同にされる

詐欺などの犯罪が日常茶飯事とは言わなくともかなり多いS A Oでそんなことしたら致命的である

「そ、それはそうだけど。」

「逆に、結婚してるくせにこんな感じのほう珍しいと思うけど。」

「べ、別にいいじゃない私たちは私たちだよ！」

「そんな事より、今日は何の用？」

「んーとね、魔剣の事について詳しく聞きたくて。」

「魔剣で…もしかして戦う気なのキリト？」

「そのつもりだけど…。」

「はー、あんたも戦闘中毒ね。」

「いいから教えろって。」

「まあいいわ、そうねどこから話したもののか…。」

「なんだよ、そんなにいろんな噂があんのか？」

「逆よ、少なすぎて有力な情報がないのよ、でも確かに言えることは男で茶色のローブを深くかぶってて綺麗な紫色の剣を持ってるってことだけね、それすらもしかしたら違うかもしれないけど。」

「誰が見たやつがいるのか？」

「それはいるにはいるらんだけど誰かわかんないし、この噂自体デマじゃないかと言う人たちもいるらしいし。」

「結局わかったのは男でビータであることと容姿ぐらいか。」

「これからどうするの？キリトくん。」

「さてどうしようか…。」

「エシュロンに聞いてみたら？」

「エシュロンか…あいつどこにいるかわかんねーんだよな。」

確かに、エシュロンに会えば『魔剣』の正体がわかるかもしれない

エシュロン…『ファルコン』『イーグル』『ホーク』『歩く図書館』

『歩く情報』『オールソード』

『自由気まま』『フリーダム』『正体不明』『カウンターストップ』

『死線の蒼 デットブルー』

『蒼い影 ブルーシャドー』 e t c…

無数の二つ名を持つ彼は情報屋として有名だし、彼に会ったという者は少ない

決まった居住区を持たず、顔もよく知られていない彼に会うのはほぼ不可能である

だが、俺のフレンドリストにはエシユロンの名が載っている

「あんた、フレンド登録してんだからフレンド追跡で探さないよ。」

「

フレンド登録をしているとマップでフレンド追跡というものができ、フレンド追跡をすればその対象の元までたどり着ける

はずなのだが……

「どうやってか知らねーけど、あいつ追跡できないんだよ。」

「どうゆうことよそれ。」（リス

「なにそれ！」（アスナ

「言葉のとうりだよ、追跡できないんだよ。」

「じゃあ、探すのは無理かもね。」

「うーん、とりあえず『魔剣』を探すのは無理に近いからエシユロン探すか。」

「そうしょつか。」

そっついながら俺はエシユロンと初めて会ったときを思い出していた

リズベットと（後書き）

感想お願いしますーす。

報告（前書き）

かなり遅くなりましたね。
すいません。

今回は私からの報告です。

報告の続き

結局、こっち消すことにしました。

今月中には消します。

確定事項ではありませんので、もしかしたらな可能性もありますが
ほぼ確実にこっちを消しますので。

一応書き直そうと思ってここの内容を一話分でそのままコピーして
いる小説を投稿してます。

題名は（仮）ですがSAO二次創作（仮）です。

小説のURL <http://ncode.syosetu.com/n2205x/>

続きを期待されてた方は本当に申し訳ありません。

特に友人のT、マジゴメン！結局こっち消しちゃった。

むこうでもかなりの間放置が続くと思われますが、ご容赦ください。

本当に申し訳ありません>（――）<

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0632u/>

SAO magicwordmanstory

2011年10月7日11時31分発行